

令和 2 年度 第 3 学期始業式あいさつ

令和 3 年の新しい年を迎え、令和 2 年度も残すところあと 3 ヶ月となりました。今学期は 3 年生にとっては邇摩高校の 3 年間の締めくくりであり、高校生活の完成の学期であるとともに、4 月から始まる新しい生活に向けた飛躍の学期です。2 年生・1 年生にとってもこの 1 年間のまとめの学期として、そして 4 月から始まる新年度へ向けての準備の学期として大切な学期ですので、目標を決め、その目標を達成するためにどう取り組むかを考えながら、着実に成長してほしいと思います。

本年は開催が危ぶまれた箱根駅伝は、例年どおり 1 月 2 日、3 日に行われました。この大会では駒澤大学が最終 10 区で 3 分 19 秒も離れていた差を残り 2 キロで逆転し、13 年ぶりの優勝を果たしました。最後まであきらめない精神力や、戦い方が総合優勝という結果につながったと感じました。優勝は逃したものの、出場 4 回目にして初の優勝まであと一歩の所まで戦った創価大学も見事でした。昨年の 9 位から一気に準優勝という快挙を成し遂げました。優勝候補の青山学院大学も往路 12 位から巻き返しを図り、復路優勝を果たし、総合 4 位と意地を見せました。

この駅伝に限らず、スポーツを通じて自らを成長させるためには、目標となるチームや相手が必要で、目標に向けて仲間とともに頑張ること、大会に向けて着実に準備を進めることが必要です。このことは、私たちの日頃の生活にも通じていると思います。

耐えて続けていて、それがすぐに結果となるのは稀です。うまくいかないことの方が多いかもしれません。優勝を逃したチームやシード校になれなかった大学は、結果が得られず悔しい思いをしているはずですが、ここで我慢してさらに続けること、課題を見つけて解決して前に進むことが必要です。失敗したところでやめれば失敗のままですが、続ければ成功につながります。皆さんにもぜひこのような生き方を期待します。

今年は丑年です。「牛」は古くから食牛や乳牛、田畑を耕す耕牛と呼ばれ酪農や農業で人々を助けてくれる存在として重要な生き物でした。大変な農業を地道に最後まで手伝ってくれる様子から、丑年は「我慢（耐える）」や「発展の前振れ（芽が出る）」を表す年になると言われています。

今、本校は大きな転換期を迎えようとしています。生徒会は制服の見直しに着手していますし、生徒の皆さんを全面に出した様々な活動を実践し、学校運営にも生徒の皆さんが積極的に関わるようになってきています。さらに、令和 4 年度入学生からの新学習指導要領を踏まえて、総合学科のさらなる魅力化に向けて先生方も知恵を出し合いながら新しい教育課程を作っています。

令和 3 年の丑年がこのように発展の前ぶれの年となるよう、皆さんの活躍を期待しています。